



photo 藤田佳久

「仲間を呼んでコンサートを開いて皆に聞かせたい！そんな患者さんの願いが叶ったとき、多くの患者さんやご家族のころにも仲間たちの思いが伝わった。ホスピスはこころを伝え合うところ」

## 「お父さん。今日は随分しゃべるんだね」

食事を止めたら痰の量が減り、熱も下がりに、良くおしゃべりをするようになったMさん。最近「饅頭が食べたい」「カップラーメンが食べたい」と訴えます。リクエストに応じて少しずつ見守りながら食べてもらっています。でもその度に頭をよぎるのは、痰を取るときに苦痛そうな姿。食べなきゃ痰が出ないのにと思いますが・・・。

私たちは、Mさんの様に飲み込む力が弱くなり、食べる度にむせ込んだり、痰の量が増えてしまう患者さんによくお会いします。食べることを控えていただくことが安全ですが、ホスピスでは、そんな中でも、患者さんの食べたいご家族の食べさせたい思いを支援することが多いのです。ある時、「ステーキが食べたい」と言うので、「ステーキじゃなく、ハンバーグならいかがでしょうか？」と返すと、すぐさま怒り出しました。「自分が食べたいんじゃない。この人（妻）に食べさせたいんだ」。毎日通って傍に付き添っている妻への思いやりだったのです。

Mさんは、「逝く時は、一緒に逝きたい」「叶わないなら、一日遅れでもいい」と話します。「お母さんと宗教の違いがあつて、逝く道が違って、進みながら振り返るんだ。振り返るのは反省するということなんだ。そうすることで、同じ所へ行けると思うんだ」。いつもは無口なご主人。

「お父さん。今日は随分しゃべるんだね」。ベッドに顔を近づけ、涙をためている奥さんが、恥ずかしそうに見つめていました。

吉村 良子・文

函館おしま病院  
ホスピス病棟看護師長



よしむら りょうこ  
社会福祉法人函館厚生院函館  
厚生院看護専門学校卒業。  
平成16年函館おしま病院勤務。  
平成22年12月より同病院ホスピス病棟看護師長に就任し、現在に至る。